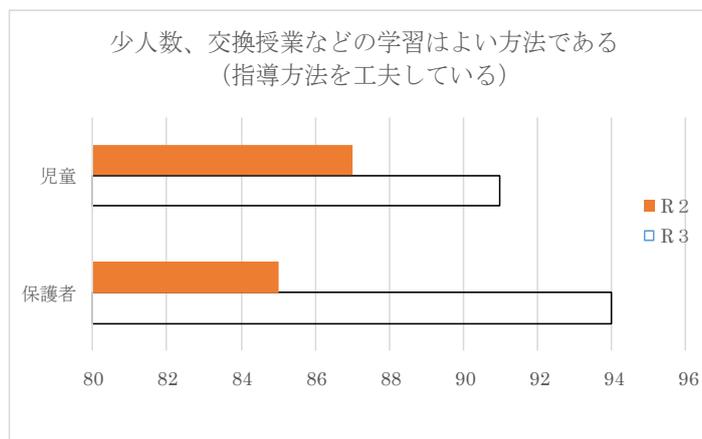
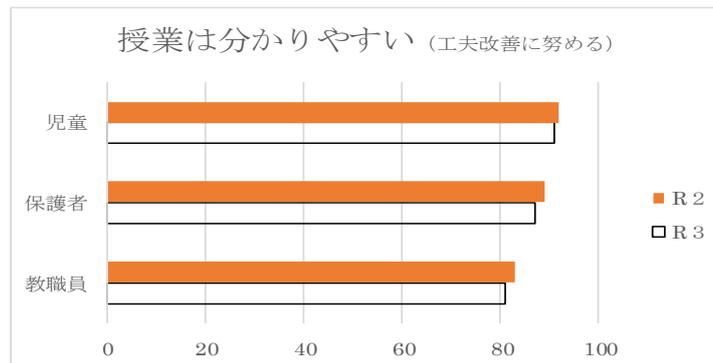


令和3年度(2021年度) 豊能町立光風台小学校 学校評価報告書(その1)

<p>① 設定目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」をテーマに「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり ・自分の身を自分で守ろうとする、体を大切に、元気でたくましい児童の育成 (学力向上) (健康・体力)
<p>② 本年度の取り組み状況</p>	<p>(学力向上)</p> <p>① 授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研、研究協議会。授業公開。授業評価等の研修。講師招へい研修(国語科等)。 <p>② 指導形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数、国語等での少人数指導、高学年の専科指導(国・算・理等)、T.Tによる指導。3～6年外国語でALT等に加えて担任等が指導。複数学級学年での交換授業、合同授業。 <p>③光小スタンダードによる学習規律の確立</p> <p>④一斉朝読書を中心とした読書推進、家読(うちどく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書。図書委員会による本の紹介、高学年による低学年へ本の読み聞かせ。 ・学級文庫の設置。司書やサポーターによるブックトーク。保護者対象の読書啓発。 ・SE(学校図書館活動充実加配)を活用した教科横断的な図書館活動の充実 <p>⑤学力調査等の結果分析と指導改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(5月27日)・府すくすくウォッチ・校内学力実態調査(全学年毎学期実施)・とよのチャレンジ実施(5月27日・28日)・力試しテスト(2月)。 ・授業アンケート。とよのチャレンジ追調査(2年～4年) <p>⑥放課後(わくわく教室)の実施 週2回(火・木) コロナ禍の中で、中止の時期もあり。</p> <p>⑦今年度の外国語活動・授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～2年年間10時間程度。3～4年で年間35時間、5～6年は年間70時間程度の外国語の授業。 <p>⑧金融教育の取組み(2年間) 今年度報告・発表</p> <p>(健康・体力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 運動会、水泳指導(コロナのため中止)などの学校行事、授業を通じた体力づくり ② ひかり幼稚園との運動づくり・体育の連携 体育支援員の配置(コスモスポーツ) ③ 児童会行事、委員会活動等遊びによる体づくり活動 ④ 食育の推進(栄養教諭による食育指導 きょうだい学級での給食交流会 保健給食委員会の活動推進) ⑤ 保健指導の推進(給食後歯みがきタイム 養護教諭による保健の授業 保健給食委員会の活動推進) 養護教諭2名体制

【学校教育自己診断の結果および全国学力・学習状況調査の結果】

○授業研究、指導形態の工夫



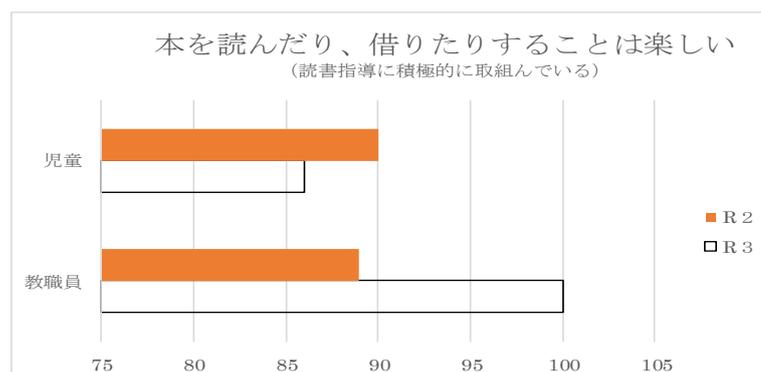
(※グラフは学校教育自己診断において、肯定的意見をまとめた数字です。以後、同様。)

アンケート結果から、児童、保護者、教職員ともに「授業はわかりやすい (児童、保護者)」「授業の工夫改善に努めている (教職員)」の肯定的な回答が昨年度とほぼ同様の評価となった。また、「少人数指導や交換授業」については児童、保護者ともに昨年度に比べて高い評価となった。一人ひとりにきめ細かい指導を行っている一定の成果ではないかと捉えている。コロナ禍の中ではあるが、学校が取り組んでいる授業改善や工夫をさらに進めるとともに、保護者の方々にその内容が伝わるよう、努めていく必要がある。

また、今年度も昨年同様「書くこと」をテーマに校内授業研究を行い、教職員がそれぞれの良さや課題を共有し、日々の授業に生かすことができた。また、講師を招聘し、国語科(説明文)の授業や学校図書館活動の具体的な手立て等を学んだ。



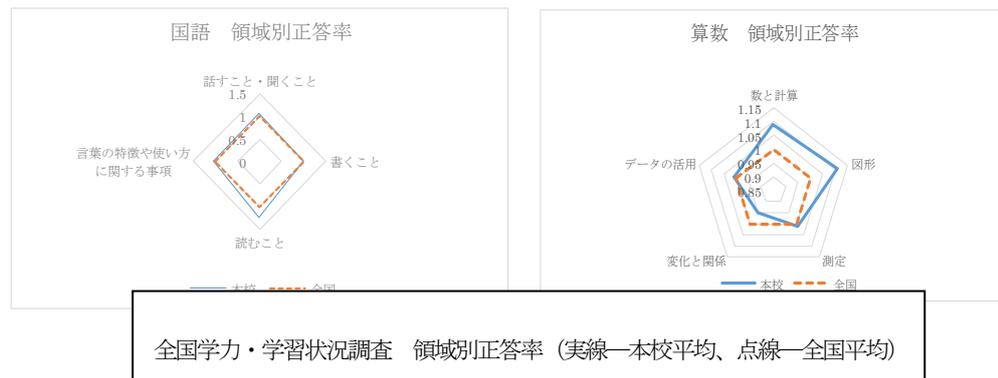
○一斉朝読書を中心とした読書推進、家読(うちどく)



児童および教職員のアンケート結果から、教職員は組織的に読書指導推進を進めていたと感じているが、児童が読書活動について「楽しい」と感じている割合が昨年度より少し低くなっている。今年度は「学校図書館活動充実加配」を府教育庁より1名配置していただき、各教科学習において、関連する本の読書を進めたり、幅広いジャンルの本を読むことを推奨したりする取組みを進めている。児童がさらに「読みたい」「借りたい」と思うような手立てを考えていきたい。

○学力調査等の結果分析と指導改善

- ・全国学力・学習状況調査（5月27日）・府すくすくウォッチ・とよのチャレンジ実施（5月27日・28日）・校内学力実態調査（全学年毎学期実施）・力試しテスト（2月）。・授業アンケート。とよのチャレンジ追調査（2年～4年）



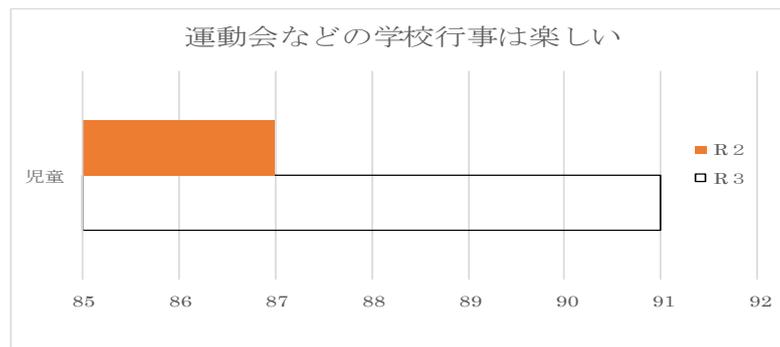
今年度は6年生対象の「全国学力・学習状況調査」、5・6年生対象の「大阪府すくすくウォッチ」、2～6年生対象の「とよのチャレンジ」を「テストの日」という形で同日に実施。どの調査においても、記述式の問題に課題があることが分かった。その課題については、日を置いて「追調査」という形で同様の問題を解く時間を設け、繰り返し指導を行った。

○金融教育の取組み（2年間）今年度報告・発表

低学年・中学年・高学年と児童の発達に合わせた「金融教育（お金の仕組みやお金の役割について考える）」を2年間にわたって実践した。実際のお金に似せた模擬貨幣を購入し、低学年では、お店屋さんごっこを通して実際にお金のやり取りをしたり、お釣りを渡したり、お小遣い帳をつけたりなどの活動。また、高学年では、貨幣とクレジット（電子マネー）のメリット・デメリットを考えたりする時間を設定した。その他、金融教育に関する図書の購入も行うことができた。

（健康・体力）

○運動会等の実施（2年ぶりに実施）



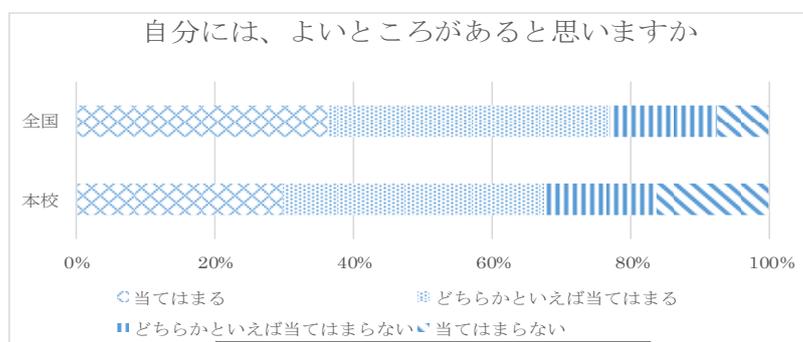
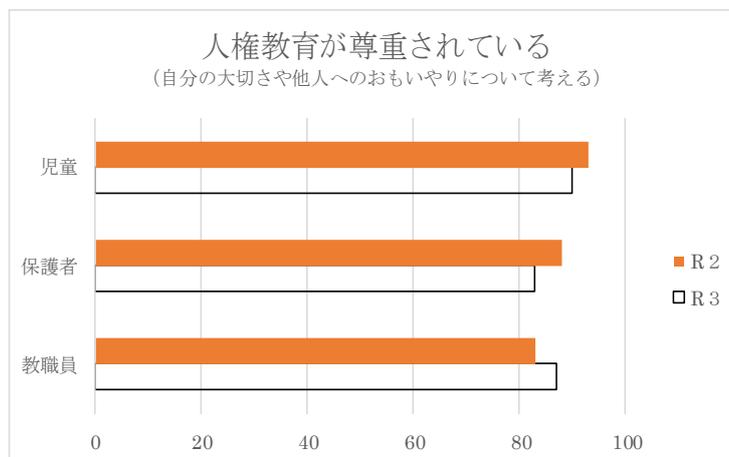
	<p>アンケート結果から、2年ぶりの運動会を午前中に低学年・中学年・高学年に分けて行ったことについて児童の評価が高かった。コロナ禍の中で、できる範囲でできることを教職員やPTA役員とも相談。サポートボランティアのお力もお借りして開催することができた。</p> <p>○ひかり幼稚園との運動づくり・体育の連携 体育支援員の配置 豊能町の保・幼・小・中一貫教育を見据えて、隣接する「ひかり幼稚園」の運動づくりと小学校低学年の体育との連携について、1年間を通して交流することができた。来年度は、今年度交流した内容を実践しつつ、体育支援員に小学校全学年に関わっていただくこと、また幼稚園の取組みにも関わっていただき、幼稚園・小学校の体力づくりについて充実した連携を行っていきたい。</p> <p>○児童会行事、委員会活動等遊びによる体づくり活動 ・ドッジボール・玉入れ（児童会行事—コロナ拡大のため延期中） 3学期の児童会行事として企画。現在、まん延防止等重点措置の中、延期中。その他、休憩時間には、鉄棒やその他の遊具、3学期はなわとび、ランニングを中心に子どもたちが積極的に体づくりのための活動を行うことができた。</p> <p>○保健指導の推進（給食後菌みがきタイム 養護教諭による保健の授業 保健給食委員会の活動推進） 新型コロナウイルス感染症防止の取組みを第一に行いながら、保健指導や授業の充実を行った。また、保護者への情報発信についても積極的に行うことができた。</p>
<p>④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）</p>	<p>○：授業研究を積極的に行い、児童の学びの向上に活かす取組みはとても素敵だと思います。また少人数指導や放課後の居残り勉強は、児童の学力や理解力に応じた指導となって「勉強が楽しい！」と思える子どもが増えていると感じております。先生方の活動に常々感謝しております。</p> <p>○：金融教育は今後も続けていただきたいと思います。</p> <p>○：食育の取組みをどんどん進めてほしい。与えられた給食をしっかり食べる意味を知ってほしい。</p> <p>○：子どもが5年生の時から「書くこと」に力を入れてもらって、その成果も感じられますが、「書く」前に「読むこと」が必要だったため、読書をさせることに苦労しました。各学年でお奨めの本棚があって、また学年の初めにその本棚にある本のあらすじを書いたプリントを配ってもらえたので、子どもと一緒に選ぶことができてよかったです。</p> <p>●：算数の少人数指導などがどのように行われているのか知りたいです。先日の授業参観で、とても丁寧ですが、正直、テンポが遅くて、できる子にとっては待ち時間が長くて退屈だろうと感じました。</p> <p>●：漢字ノートの付箋が溜まっていたり、連絡帳を書かなかったり、給食当番のエプロンを忘れたまま学校のを一週間借りっぱなしだったり、体育の赤白帽がずっと家にあったり…勉強以前にやるべきことができているなら、業間やお昼休みを使ってでもやらせてほしいです。やらないで済む体験をさせてほしくありません。</p> <p>●：家読（うちどく）ですが、我が子は図書関係のお便りを持って帰ってくるものの、あまり活用していない印象で、児童個々の「本を読む意欲」に任されているのかと感じております。</p> <p>☞：少人数指導では、わからない所を子どもが言えるようになるとさらに指導が充実していくのではないかと。</p> <p>☞：読書活動では、本を読む機会、本になじめる機会をどんどん増やしてほしい。</p> <p>☞：体力づくりでは、子どもが自分の体力の限界を知る機会を与えてほしい（自分の体の限界に挑戦する）</p> <p>☞：プログラミング教育の中の国語の分野に漢字の成り立ち、諺など日本文化を学べるものや新しい漢字をつくるゲームなども入れてはどうでしょうか。</p>

○：高評価 ●：課題 ☞：提言

令和3年度(2021年度) 豊能町立光風台小学校 学校評価報告書(その2)

<p>① 設定目標</p>	<p>自分も他の人も大切にし、積極的に人とつながり合おうとする児童の育成 (豊かな人間性)</p>												
<p>② 本年度の取り組み状況</p>	<p>(豊かな人間性)</p> <p>①定期的な学級実態交流・毎学期1回のいじめ・体罰アンケート・児童会・委員会等の充実</p> <p>②人権をテーマにした(集団づくり)に関する3回の研究授業、校内研修の実施、人権参観(道徳含む)</p> <p>③児童会を中心とした朝の挨拶運動</p> <p>④係活動や委員会活動等を通じた学校の美的環境づくり</p> <p>⑤花、野菜などの栽培、生き物の飼育を通じた命の教育の推進</p> <p>⑥特別支援教育・通級指導教室の充実 支援学級、通級、特別支援の個別支援教育の実施</p> <p>⑦SC・SSW等関係機関と連携したケース会議、支援対策会議の実施</p> <p>⑧低中高学年での学年人権集会、『平和学習週間』</p>												
<p>③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容</p>	<p>【学校教育自己診断および全国学力・学習状況調査より】</p> <p>○定期的な学級実態交流・毎学期1回のいじめ・体罰アンケート・児童会・委員会等の充実</p> <div data-bbox="486 1097 1268 1579" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>いじめや体罰のない学校づくりに取り組んでいる</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R2 (%)</th> <th>R3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童</td> <td>96</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>94</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="343 1601 774 1937" data-label="Image"> </div> <p>アンケート結果から、いじめに対する取り組みについては、児童・保護者ともに肯定的な回答がやや低くなっている。特に保護者は90%を下回っており、いじめや仲間づくりに対するさらなる取組みを望まれている。いじめが起こった時の迅速な対応はもちろんのこと、本質のないいじめを許さない取組みを行っていくためには、児童一人ひとりが自分自身を大切に思い、友達を大切にすることを経験的に学ばせる必要がある。そうした取組みを保護者の皆さんに発信しながら、学校全体で組織的に取り組んでいきたい。</p>	対象者	R2 (%)	R3 (%)	児童	96	92	保護者	90	84	教職員	94	94
対象者	R2 (%)	R3 (%)											
児童	96	92											
保護者	90	84											
教職員	94	94											

○人権をテーマにした（集団づくり）に関する3回の研究授業、校内研修の実施、人権参観（道徳含む）



全国学力・学習状況調査結果より

アンケート結果から、人権教育については、昨年度より児童・保護者ともにやや評価が低いですが、教職員は取組みを進めることができたという評価している。学校の取組みを保護者の方々にわかりやすくお伝えできていない部分と、人権参観等がリモートによる参観になったこと等も一因ではないかと考えている。各学年で人権に関するテーマを掲げて取組みを進めることができた。特に中学年では、視覚障がいの方のお話、点字の学習、ボッチャの体験等体験的に学ぶ学習を進めることができた。また「自分にはよいところがあると思いますか」ということについて、例年本校の児童は肯定的意見が全国平均を下回っている。自分も他人も大切にする児童を育むため、自分自身の長所も短所も理解し、自分をまるごと肯定的に受け止められる児童になるよう取組みを続けていきたい。



○児童会を中心とした朝の挨拶運動

- ・年間2回程度、募金活動と合わせて行うことができた。

○係活動や委員会活動等を通じた学校の美的環境づくり

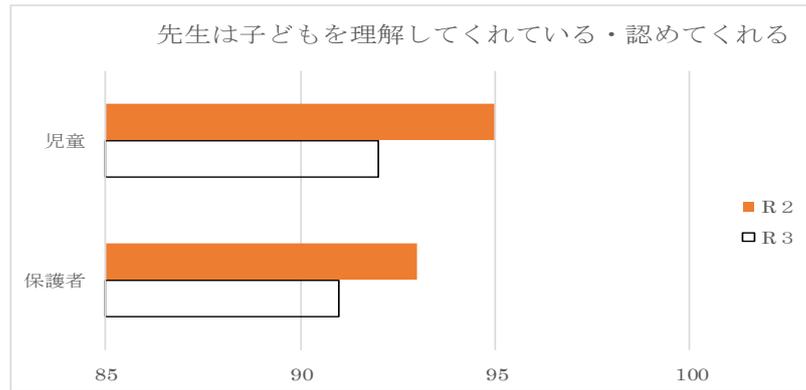
- ・チューリップの苗を委員会活動でおこなうことができた。



○花、野菜などの栽培、生き物の飼育を通じた命の教育の推進

- ・学級畑を活用して、さつまいもやヤーコン等を育て収穫することができた。

○支援教育・通級指導教室の充実 支援学級、通級、特別支援の個別支援教育の実施



アンケート結果から、「先生の子ども理解について」は、児童ならびに保護者から教職員に対しての評価は両方とも90%を超えるものの、昨年度よりやや評価が低くなっている。一定の評価はいただいているが、今後とも児童や保護者へのさらなる関係構築をめざしていきたい。支援教育では、一人ひとりのニーズに応じた教育をオーダーメイドでつくっていくことが求められている。現在、児童の課題に合わせた支援を行い、励まし、育んでいくことを進めている。今後は支援教育の指導内容にも目を向け、さらなる質の向上をめざしたい。

○スクール・ソーシャルワーカー等関係機関と連携したケース会議の実施

- ・配慮を要する児童や保護者を対象に、定期的に学年団で協力しながら面談を行った。
- ・ケースによって、SSWにも一緒に入っただき、専門的な知見を活かしながら保護者支援、児童支援を行った。
- ・学期に一回、個々のケース会議の中から、学校全体で共有すべき内容を選び、「全体ケース会議」を行った。
- ・今年度は不登校が「ゼロ」であった。



○『平和学習週間』

- ・昨年度より、8月最終週から始まる2学期初めに合わせて、どの学年でも「平和を考える」時間を設けて取組みを進めており、今年度も各学年に応じた学習を行った。また、郷土資料館や元本校校長の私物も含めて、戦争遺品の展示をしていただき、各学年が戦争をくぐり抜けてきた遺品を目の当たりにすることができた。

- ：体験的な学習を大切にしながら、根気よく努力するよさを身に付けてほしい。
- ：人権教育の始まりは「あいさつ」から。「あいさつ運動」が人権教育とつながっていることを指導してほしい。
- ：先生方が個々の子どもの状況をととても丁寧に見てくださっていることに感謝です。
- ：いじめに対する取組みは、今後も迅速に対応し、子ども同士でも解決できるよう、指導してほしい。
- ：いじめについて。学校でも積極的に取り組んでいる様子は、子どもを通して伝わってまいりました。「先生に相談できる」ことは当たり前ではなく、学校組織の風土やクラスの雰囲気、先生との関係性に大きく左右されるところだと思います。保護者アンケートの結果の点数が低いのは、当事者ではない保護者はこの取組みについて知らないことが原因かと思しますので、これからも「取り組みながら発信」をしていただければと思います。
- ☞：自己肯定感とは小さな挑戦と小さな成功体験の積み重ねと周囲の承認から生まれると思っています。家庭や学校を含めた周囲の協力が必要ですね。

○：高評価 ●：課題 ☞：提言

令和3年度(2021年度) 豊能町立光風台小学校 学校評価報告書(その3)

<p>① 設定目標</p>	<p>保護者・地域との信頼関係の構築、保・幼・小・中との連携 (安心・安全) (開かれた学校づくり)</p>
<p>② 本年度の 取り組み 状況</p>	<p>(安心・安全)</p> <p>① 教職員の安全見守り、地区集会と集団下校訓練</p> <p>② 地域の安全見守り隊や保護者、スクールガードによる、毎朝及び定期的な登下校見守り活動</p> <p>③ 安全マニュアルの作成と各種避難訓練、防犯教室(5～6年)(コロナ禍のため中止)、不審者対応訓練(教職員)の実施・災害発生時対応用「緊急カード」作成・保護者引取り訓練の実施。(幼稚園と連携して実施)</p> <p>④ 救急救命講習(コロナ禍のため中止)</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症予防</p> <p>・マスク、手指消毒、手洗いの徹底、マスクの有無関係なく10分以内でのペア学習・グループ学習</p> <p>・3密を防ぐ対策徹底、マスクをはずす際の活動(リコーダー、給食、体育等)への配慮</p> <p>(開かれた学校づくり)</p> <p>① 学校情報の地域への発信</p> <p>・授業参観3回(ZOOM参観)。学級懇談会4回(1回中止)。個人懇談会2回。</p> <p>・学校だよりの地域、議会、サポーター等関係者への回覧。 ・学校ホームページ掲載。</p> <p>② サポートボランティアや学生サポーターの授業支援活動</p> <p>③ 学校教育自己診断の実施 報告資料(学校改善を含む)の作成、配布</p> <p>④ 学校協議会・学校保健委員会の開催 年3回の学校協議会と年2回の学校保健委員会(3回目中止)</p> <p>⑤ 地教協や青育協やPTAと連携した、ふれあいのつどい、秋の日のつどいへの参加</p> <p>・冬休みの宿題 — エコライトの取組み</p> <p>⑥ 学校支援地域本部の設置、コーディネーターを中心とした支援活動、放課後「わくわく教室」</p> <p>・コロナ禍で継続した取組みができなかった</p> <p>⑦ 行事、奉仕活動などPTAと連携した学校の活性化</p> <p>⑧ 保・幼・小・中との連携 ・ひかり幼稚園との連携</p>

【学校教育自己診断および全国学力・学習状況調査より】

(安心・安全)

○安全立ち番、地区集会と集団下校訓練

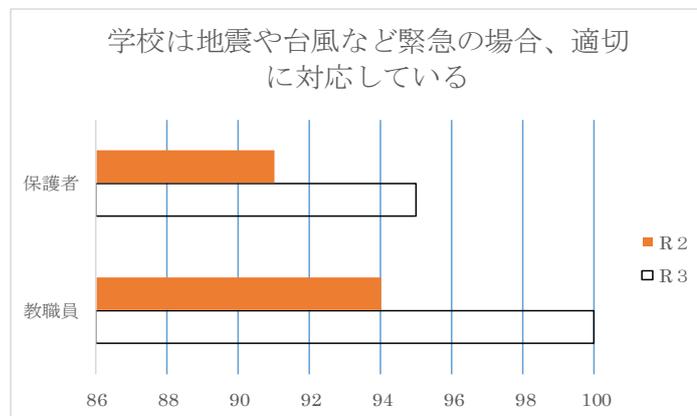
- ・朝の立ち番については、支援コーディネーターと管理職で行った。
- ・地区集会と集団下校訓練については、年間予定通り、学期ごとを基本に行った。

○地域の安全見守り隊や保護者、スクールガードリーダーによる、毎朝及び定期的な登下校見守り活動

- ・地域住民、民生委員、スクールガードリーダー等の皆様の協力を得て、児童の登下校の見守り活動を年間通して行っていただいた。



○保護者引取り訓練の実施（ひかり幼稚園と連携して実施）



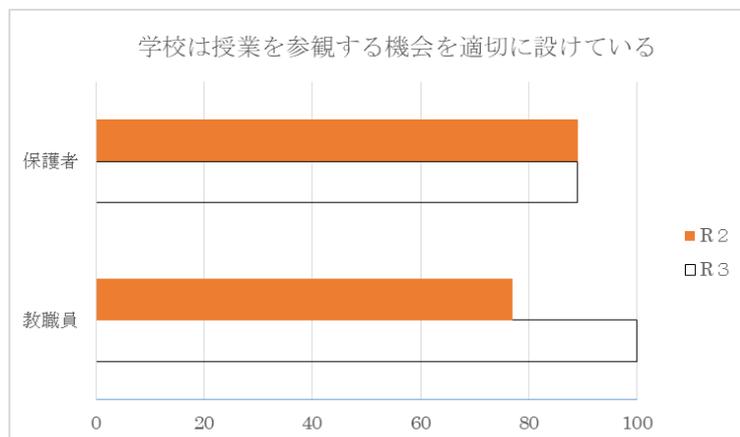
アンケート結果から、緊急時の対応について、連絡や訓練等について概ね評価が高かった。今年度は、小学校単独でこれまで行っていた保護者引き渡し訓練を「ひかり幼稚園」と合同で行うことができた。緊急時に備えたより地域の実態にそった取組みとなった。今後は、地域防災の取組みと連携をして、地域全体でさらなる防災意識を高めていきたい。

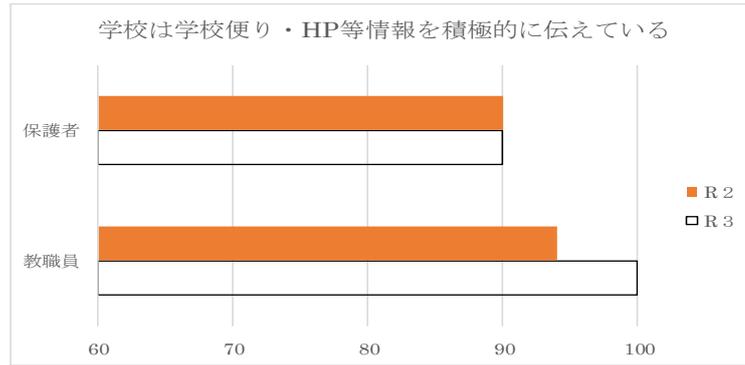
○救急救命講習

- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止。

(開かれた学校づくり)

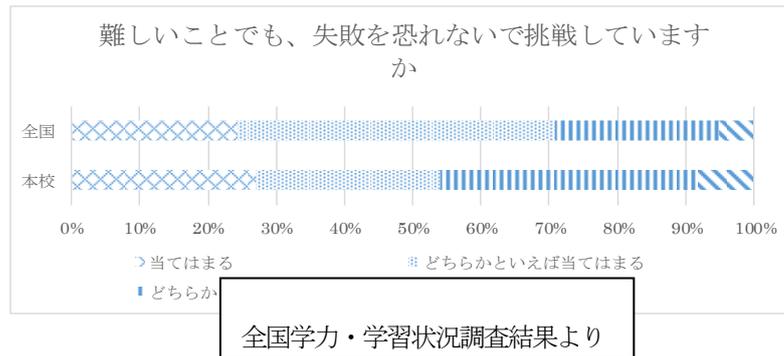
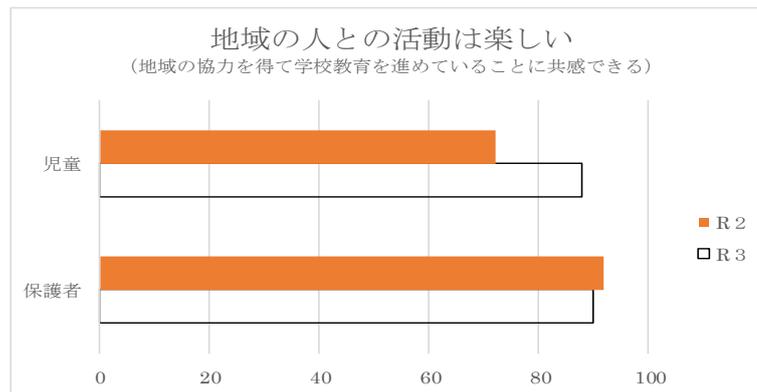
○学校情報の地域への発信





アンケート結果から、「授業参観の機会」や「学校だより」、「ホームページ」等の情報については、概ね高い評価をいただいた。授業参観については、「ZOOM」を活用した参観授業を年間3回行った。コロナ禍が落ち着いていけば、学校へ訪問いただいての参観を予定したが、感染状況の拡大によって行うことができなかった。また、学校だよりやホームページについても学校の取組みをできるだけ保護者の方々にお伝えすべく積極的に発信していくことを心がけた。今後は、お便りのデジタル化やアプリを利用したアンケート集計など、より保護者の方々に情報が伝わりやすく、学校と保護者が連携しやすい連絡体制づくりを行っていきたい。

○サポートボランティアや学生サポーターの授業支援活動



アンケート結果から、昨年度はなかなか取組みが進まなかった地域のサポーター（光小サポーター）との体験を通じた学習について、特に児童の評価が昨年度に比べて高くなった。学生サポーターにも昨年度に引き続き、週1回活動。コロナ禍の中でできることが限られていましたが、地域の方々と一緒に活動する中で「とよの町が大好き」と思える児童を育てていきたい。また、例年全国学力・学習状況調査にて、全国に比べて肯定的意見が低い「失敗を恐れず挑戦しているか」の項目。こうした地域の方々との交流を通して学ぶ活動の中でも、初めてのことや苦手なことに挑戦していく活動を取り入れながら育てていきたい。学級の仲間、教員、地域・保護者の方々と一緒に取り組みを行う中で、児童がのびのびと失敗を恐れず、自分の力を発揮していく場や時間を保障していきたい。

③ 学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

- 学校教育自己診断の実施 報告資料（学校改善を含む）の作成、配付。
 - ・年度末の3月に保護者への配付、HPへのアップを行った。
- 学校協議会・学校保健委員会の開催 年3回の学校協議会と年2回の学校保健委員会
 - ・年度初めに第1回の学校協議会・学校保健委員会を開催。2回目も全国学力・学習状況調査結果のご意見をいただいた。3回目は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため書面にてご意見をいただいた。

- 地教協や青育協やPTAと連携した、ふれあいのつどい、秋の日のつどいへの参加

・コロナ禍のため「ふれあいのつどい」「秋の日のつどい」中止。

・地域協×青育協×PTAのコラボ企画として、冬休みの宿題に科学工作「エコライトづくり」の取組みを行いました。



エコライトの作品

コロナ禍の中で自由に外出したり、遊んだりすることが

できない児童にお家で、ご家族の皆さんと一緒に作れる防災グッズ「エコライト」を作成。学校で集め、写真に収めてから「学校だより」で発信して取組みの成果を地域・保護者に報告。来年度も今までの取組みに固執せず、柔軟に取組みを考えていきたい。

- 学校支援地域本部の設置、コーディネーターを中心とした支援活動、放課後「わくわく教室」

・原則「火・木」曜日に開催。4年生から6年生を対象に行った。コロナ禍で継続した取組みができなかった。



- 保・幼・小・中との連携

・保・幼との交流会を学期に1回計画。3学期は、コロナの感染状況が拡大したため、小学校へ招くことができていない。

④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

- ：コロナ流行の中、いろいろな取組みをしていただきました。
- ：学校と地域を近くすることで、サポートボランティアさんの人数も増え、学校から離れた場所（放課後の公園等）でも見守っていただくことにつながり、ひいては地域での子どもたちの安全につながると感じています。
- ：大きくは情報発信されていますが、学級通信がとても減っていて、クラスの様子が見えません。通信があれば、それをもとに子どもに話を聞いたりするので残念です。コロナで学校に来られなくなっているだけに、保護者に学校の様子が伝わりにくくなっているように思います。
- ☞：「地域・保護者・学校」とよりよい関係性をつくることの大切さと「地域・保護者」が学校に何を望んでいるのか、学校というものは何なのかを考える必要があるのではないのでしょうか。
- ☞：たくさんの地域の方が学校活動をサポートしていることは知っていますが、登下校に付き添っていただいている方と顔を合わせることもほとんどなくなってしまいました。コロナ禍が落ち着いたなら学校行事にも来ていただき、児童がサポートボランティアの方々を紹介するなどの取組みも地域連携に役立つのではと思います。

○：高評価 ●：課題 ☞：提言